小学校問題行動等防止プログラムに関する実践事例

観音寺市立高室小学校

関連項目：教育活動プラン①、②

体験活動を通して心を育てる

目的

本校の児童は，言われたことには素直に応じて行動ができますが，自ら考えて，進んで行動することが苦手です。そこで，ボランティア活動や当番活動などでその子のよさを発揮できる場を設定し，認められるようにすることで，自己有用感を高め主体的な活動ができるようにしたいと考えました。

内容

● ボランティア活動を通して自己有用感を高める

毎週木曜日を「ボランティアの日」に位置づけ，学級や個人で考えたボランティア活動に取り組んでいます。

発達段階に応じて自分たちで学校をよくするためにできることを話し合って活動しています。例えば，高学年は，普段の掃除では十分にできていない場所を掃除したり，低学年は廊下を磨いたりしました。個人ではトイレのスリッパや学級文庫の図書を整頓するなどの活動に取り組んでいます。

自主的な活動が広がってきています。

● 全体の場で紹介し自信を持たせる

ボランティア活動での取り組みは，ボランティアカードで自分の取り組みの振り返りを行います。また，進んで行えた活動を，ハートカードに書かせ，ボランティア担当が放送を通じて全校に紹介するとともに，掲示コーナーに掲示し，参観日には保護者にも紹介できるようにしています。

自分のがんばりを全校や保護者に認められることで，次の活動への意欲が高まり，ボランティア活動が充実してきています。

● 安心して自分を表現できる学級づくり

人権教育では，なかよしアンケートをもとに人権問題について話し合ったり，なかよしめあてを発表するなどの集会を開いています。また，全校で信頼関係を高めるゲームなどを行っています。

各学級では，「花さき山のいいとこ見つけ」に取り組み，学級内でお互いに「よさ」を認め合う活動を行っています。この活動と並んで，支持的な風土を築く学級経営を行うために，Q-U テストを導入して職員が協力して学級経営について研修するなどの場も設定しました。

成果

こうした取り組みをすることで，本年度は不登校や保健室登校の児童がいなくなり，問題を抱えている児童も減少してきました。授業も，集中して参加できる児童が増えています。

この実践に際しては，全職員の共通理解が一番大切です。職員一人一人が児童の立場に立って考え，児童に寄り添って見守り支援していくために，よく話し合ったり情報交換したりする場を積極的に設定しました。形式的な会をとらなくても，日常的に話し合いができる状況を作っていきました。